

HIN / Arts & Science, Nijodori Kyoto

京都府 | 日用品



手仕事のエッセンスをふんだんに取り入れた静謐な場所。

1階には京都をはじめ、世界各国の老舗や職人に依頼した別注アイテムが並び、2階のギャラリースペースでは作家の企画展示やイベントを不定期に開催。幾度となく増改築を繰り返してきた古い町屋の骨組み以外をほぼいちらから改装した「HIN」は、京都だけでも店舗を構える〈ARTS & SCIENCE〉のなかであって、とりわけ京都らしさを感じられるショップに仕上がっている。

建築デザインを担当したのは、京都に拠点を置く ikken 設計室の吉田隆人さん。ショップの顔とも言える井藤昌志さんによるカウンターは、熟手の末に現在の位置に収まった。吹きガラス作家の小澄正雄さんが手掛けたロンデルとブロックガラスの窓から差し込む光を、左官職人の植田俊彦さんが仕上げた漆喰の壁が柔らかく反射させている。人研ぎ仕上げの床も石や砂利の調合から色、仕上げに至るまで何度も試作を重ねた。屋外スペースの壁に設えられた花活けには、京都の花屋「みたて」の西山隼人さんが四季折々の生花を生け込む。

カウンター内に収められた品々を求めてショップまで赴くというのはもちろんのこと、京町家を舞台に、吹きガラスや左官、木製のカウンターに四季の草花といったさまざまな職人の手仕事を体験することにも、買い物とは異なる魅力がある。ある種、神社仏閣巡りと並列とでも言うのか。すみずみまでこだわった見に行くべき空間と“みたて”楽しみがここにはある。

SHOP DATA

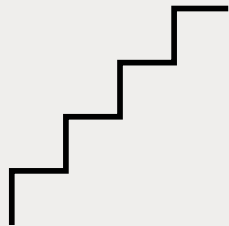
京都府京都市中京区木屋町通二条東入東生洲町 482-3 角
075-253-6782
11:00 ~ 19:00 不定休
arts-science.com/shop/hin/

DAILY GOODS

1. 独特な色味とゆらぎのあるガラスで型吹きブロックガラスの窓ができた窓。2. 柱や梁の制限があるなかでカウンターはここに落ち着いた。3. 「& SHOP」のショップサインも担当している金子裕亮さんによる手描きのロゴ。デザインは葛西薫さんによるもの。



2F



1. Work vest long ¥58,000 2. スツール ¥40,000 3. 角トレイ(上から)チーク ¥30,000/浅・ウォールナット ¥20,000/深・ウォールナット ¥22,000

1. 「HIN」のスタッフがユニフォームとして使用しているワークベスト。(A&S)の定番である linen vintage の生地で作られ、たくさんポケットが便利な一着。2. 「HIN」のカウンターを製作した井藤昌志の工房(fuji)のスツール。草木染の黒が深い味わいを生み出している。釘を使わずにつくられているのも特徴。3. 引き出しのようにしまえて、トレイのように運べる収納というコンセプトで作家に依頼した(A&S)の別注アイテム。店舗内でも活躍していた。

1F



1. (左より反時計回り) 小物入れ 8cmねじ切り無 ¥100,000/5cmねじ切り有 ¥90,000/6cmねじ切り有 ¥110,000/小鏡 ¥20,000 2. 瓢箪鉢 ¥30,000/瓢箪杯(左より時計回り) ¥8,000、¥6,500、¥8,000 3. Urushi Shoehorn 各 ¥17,000 4. 虫除け香(10袋入り) ¥2,000/虫除け香袋 ¥1,600 5. サミ プレスレット 各 ¥60,000 6. しのぎ めんちょこ ¥13,500/しのぎ ピアグラス ¥15,000 7. Incense Stick Burner 真鍮 ¥23,500/ニッケル ¥27,000

1. 鎌倉削りの老舗に別注した小物入れ。香合としての用途に加えジュエリーや薬を入れてキャリーケースとしても使える。2. 高知の山間で暮らす荒井智哉さんによる漆器。2018年3月には南青山の「AT THE CORNER」で個展開催予定。3. 定番アイテムの真鍮製シューホーンキーホルダーに京都らしい漆で模様を。4. 「HIN」別注の京都西本願寺前にある薫玉堂による虫除け香。5. 本藍染で染めた(A&S)の生地にサミ族の刺繍を施した(マリアルドマン)とのコラボレーションプレスレット。使い込むとビュター糸がキラキラと光りはじめる。6. 金沢在住のガラス作家・辻和美とのコラボレーションで生まれたガラス。しのぎ技法で削られた柔らかいカットが特徴的。7. アリゾナ州に居を構え、メイド・イン・アリゾナにこだわってものづくりを行う建築家夫妻が立ち上げたブランド(TENNEN)。(A&S)の空間に興味をもちコンタクトをくれたのがきっかけで取り扱いがはじまった。

DAILY GOODS